



桑園整形外科

東裕隆 院長

あずま・ひろたか/1992年北大医学部卒業。市立札幌病院救急部勤務。93年北大医学部整形外科入局。2000年カレッジ大学(カナダ)留学。03年博士号取得。市立札幌病院整形外科副院長を経て、07年に開院。09年札幌人工関節センター開設。日本整形外科学会専門医など多数の資格を有する。

札幌市中央区北8条西16丁目
011・6333・3636
<http://www.dr-azuma.net>

MIS(最小侵襲手術)を用いた人工関節置換術のスペシャリスト

加齢などが原因で半月板や軟骨がすり減り、次第に骨が破壊されていく変形性膝関節症。この疾患の治療において、抜群の実績を持つのが東裕隆院長だ。

患者の体に負担がかからないよう、極力手術を行わない保存療法を心がけているが、重度の患者に対しては、MIS(最小侵襲手術)を用いた人工関節置換術を行っている。従来の手術では20〜30センチの切開が必要だったが、MISで

は5〜9センチと、非常に小さな傷で手術が可能。さらに、筋肉への負担が少ないので回復も早く、入院期間は2、3週間程度で済む。日本ではいち早くMISを始め、屈指の症例数を誇るスペシャリストだ。「変形性膝関節症は、60歳を過ぎた半数以上の女性が経験するといわれています。独自の技術と器械を使って行うMISは、体に負担が少ない上、傷跡も目立ちません。安心してご相談下さい」と東院長。



MISを用いることによって、約5cmの傷で手術が可能

また、MISを習得するために、全国から整形外科医が見学に訪れている。そこで東院長は、卓越した手術テクニックや、改良を重ねた洗練した手術器械を直接見せながら丁寧に指導を行っている。「膝の痛みで悩まれている方が、一人でも多く救われるように、MISを全国に広めていきたいと思っています」と熱く語る。親身になった診療で患者からの満足度も高く、評判を聞いたり手



卓越した技術と改良を重ねた器械で行う手術



人工関節を設置した状態

術を受けた患者からの紹介で来院する人がほとんどだという。また、変形性膝関節症だけではなく、前十字靭帯・外反母趾などの治療も数多く手がけており、FISワールドカップのオフィシャル・スपोर्टドクターの実績もあるなど、スポーツ認定医としても活躍している。